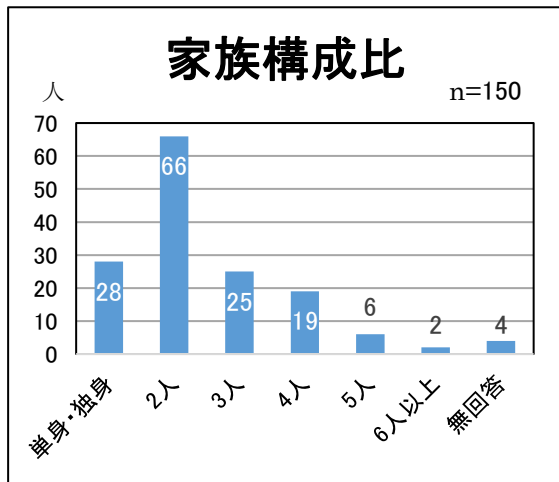
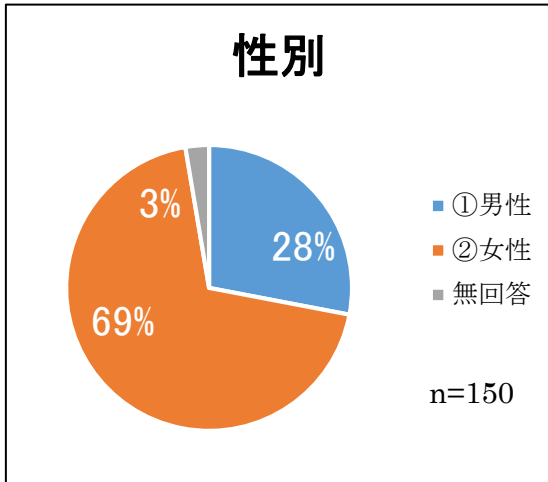


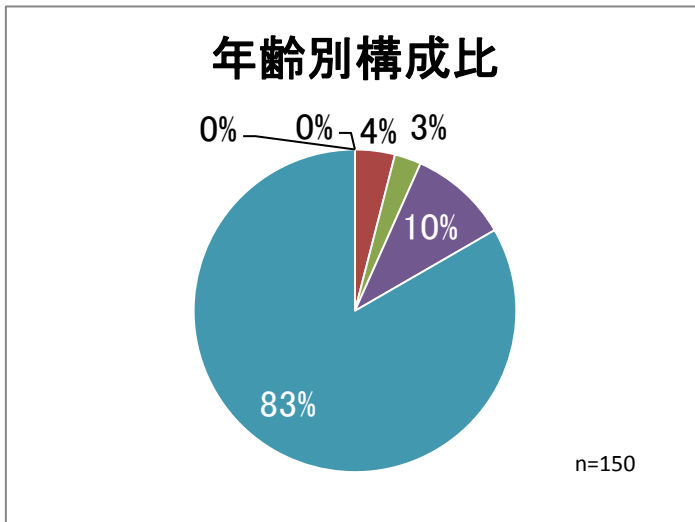
## 需要動向調査（令和元年度）

### 1. プレミアム商品券利用者アンケート調査結果

#### (1) 回答者の属性



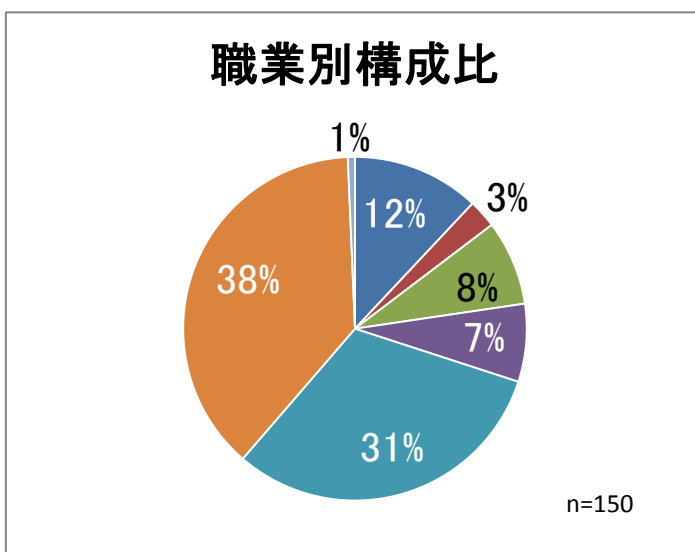
#### <年齢別構成比>



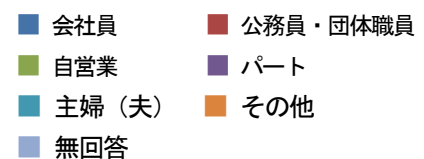
プレミアム商品券の利用者について、単身・独身または2人の世帯が約60%を占めており、更に60歳以上が83%であることから多くが1、2名の高齢世帯に多く活用されていることがわかる。しかし一般的に購買金額の大きいとされる30代~50代の活用の促進が課題である。



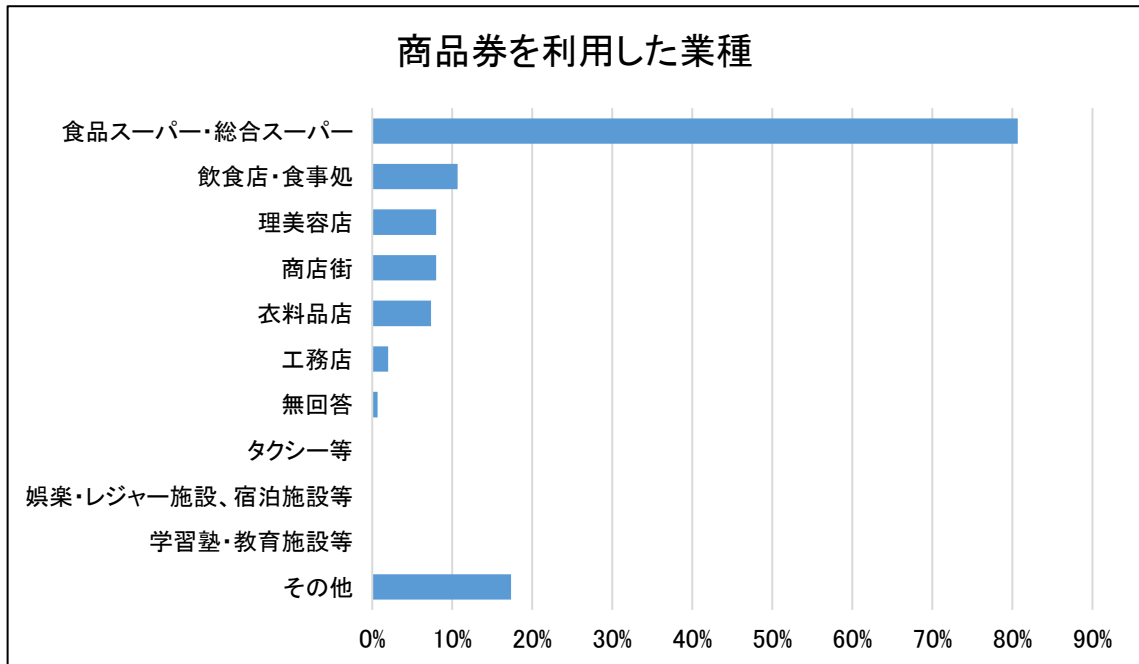
#### <職業別構成比>



買い物を担う中心が主婦や年金受給者などが占めるため約69%と高い比率になっている。会社員や自営業者などのニーズも汲み取りより広い層に活用してもらうことが課題である。

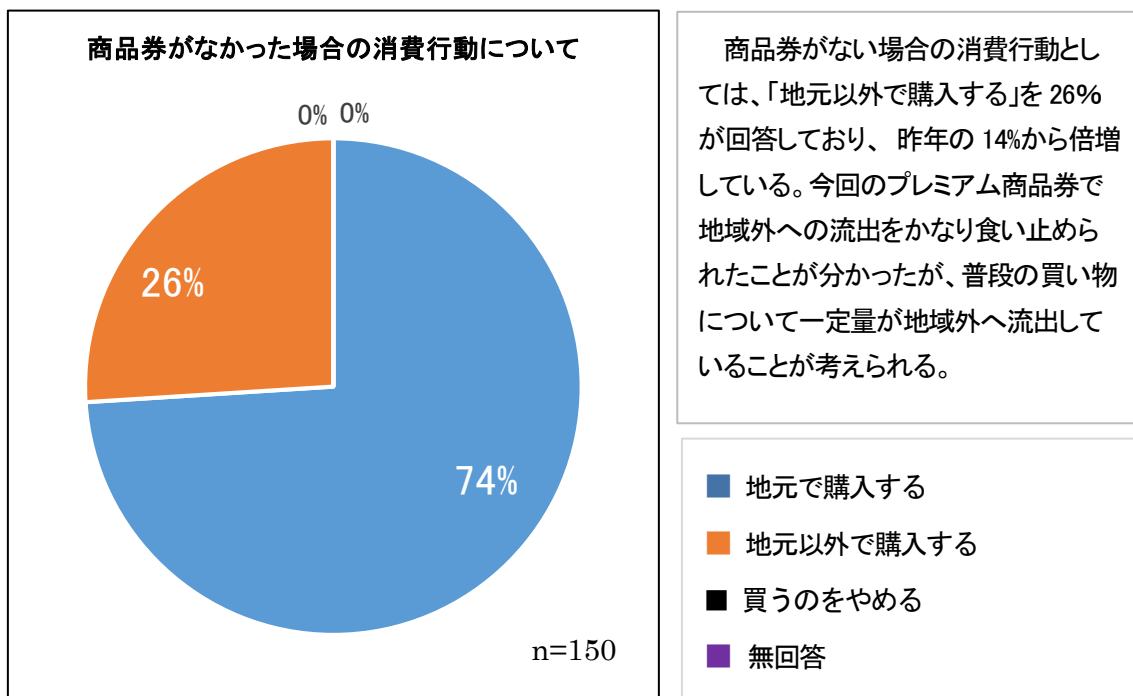


(2) プレミアム商品券を利用した業種



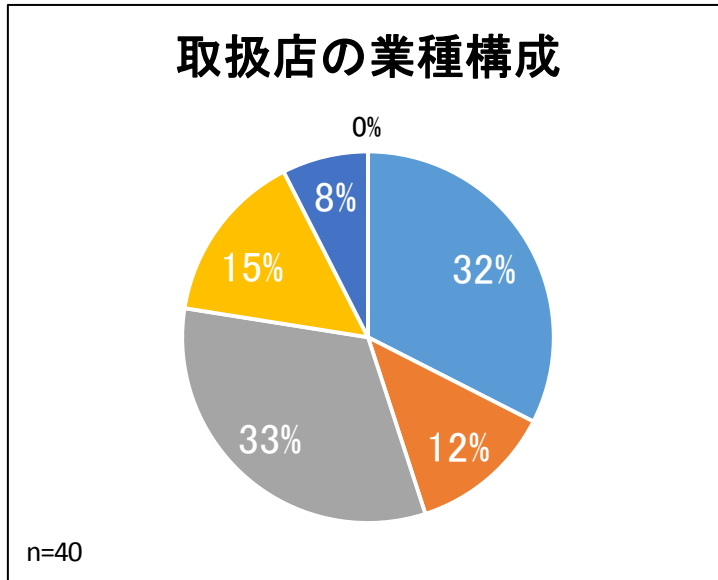
昨年に比べ「商店街」での利用割合が半分に落ち込み、その変動が「食品スーパー・総合スーパー」へと流れることとなり、人の流れも変化したのではないかと考えられる。

(3) プレミアム商品券がなかった場合の消費行動



## 2. プレミアム商品券取扱店アンケート調査結果

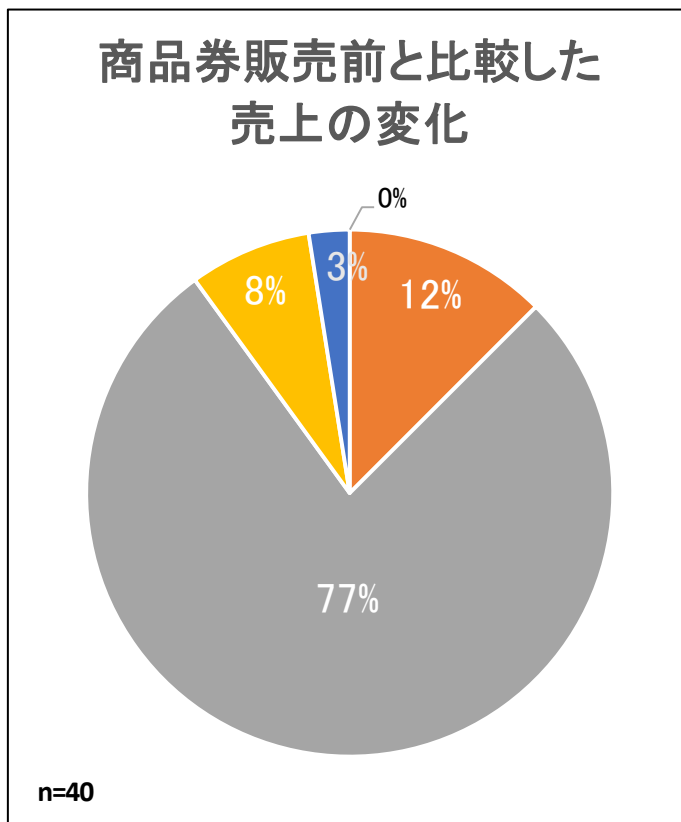
### (1) 取扱店の業種構成



昨年は「小売」が50%を占めていたが、本年は32%と減少し、代わりに「サービス業」の取り扱いが顕著に増えたことが分かる。「土木・建築業」「製造業」に関しては例年通りであった。

- 小売
- 飲食
- サービス
- 土木・建設
- 製造業
- その他

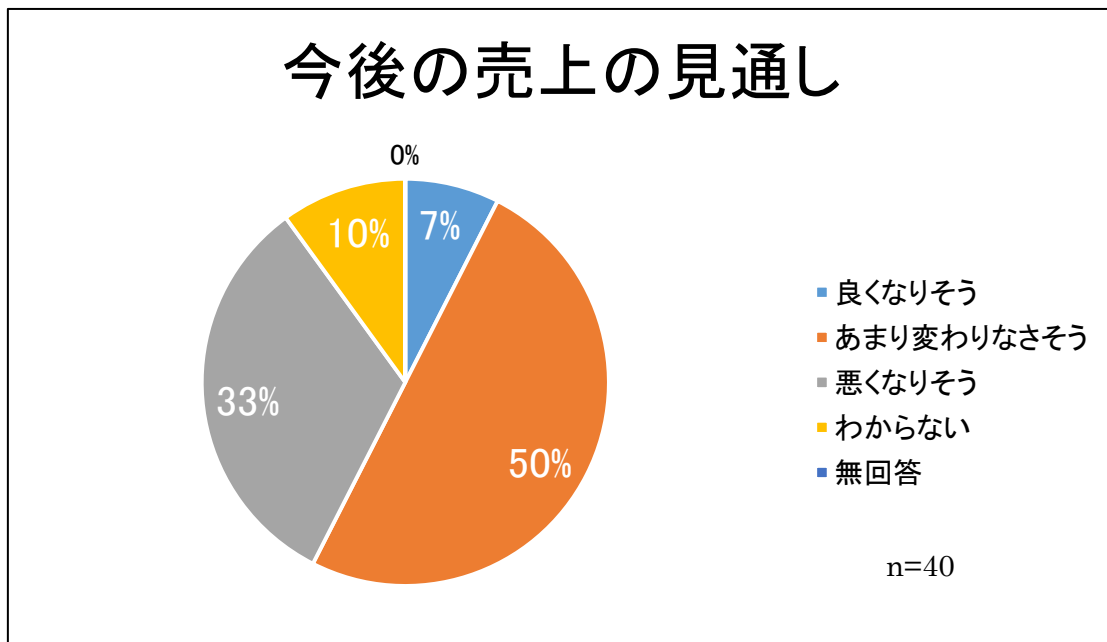
### (2) プレミアム商品券販売前と比較した売上の変化



売上が10%以上増加した店舗はなかった。「0~10%増加した」店舗は昨年より2%増えた。逆に「減少した」店舗は2%減ったことから、僅かではあるが地域内での売り上げの向上に繋がったと考えられる。

- 10%以上増加した
- 0~10%増加した
- 変わらなかった
- 減少した
- 無回答

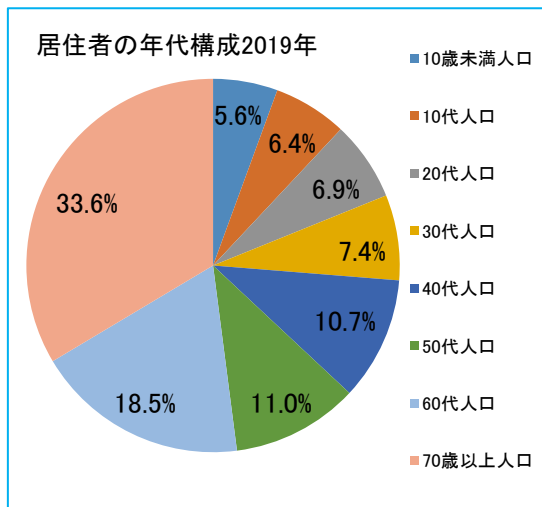
(3) 今後の売上の見通し



今後の売り上げ見通しについて、「良くなりそう」と回答した店舗が昨年より5%も伸び期待を持っている一方、「悪くなりそう」が7%も増えており不透明な状況が見て取れる。

### 3. 町丁字別の需要動向

#### (1) 大字採銅所



#### 年代構成

60代未満の人口:52.1%

60代以上の人口:47.9%

町内の60代以上の人口割合は47.5%であり、平均的ではあるが、70歳以上の人口割合が33.6%と町内の割合で29.7%と3.9ポイント高い町丁である。また19歳未満の人口も12%であり、町内の割合15%と比べ3ポイント引く町丁である。

【特徴】大字採銅所の消費動向の特徴としては比較的各消費支出の偏差値に高低が少なく、町内平均に近い状態である。その中でも「健康維持用摂取品」や「切り花」「園芸用品」が多い。これは60歳以上人口が多いことが要因と考えられる。反面、教育費や子供用の被覆や履き物への支出が少ないもの同要因であると考えられる。更に持ち家世帯比率の偏差値が62.95と他町丁と比較して頭一つ抜けている。高齢者層をターゲットした園芸用品や家事サービスの需要をより掘り起こす動きが効果的であると考えられる。

#### 分野別水準判定

分野	規模	安定	富裕	流入	密集	成長	総合
偏差値	48.91	58.64	50.74	39.76	43.32	49.81	48.53
水準判定	=	++	=	--	-	=	=

符号の意味:++高水準、+やや高水準、=平均水準、-やや低水準、--低水準

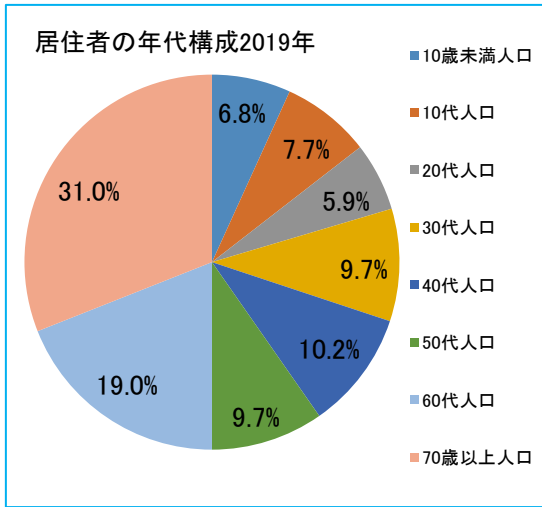
#### 消費支出の偏差値が高い分類、細目

分類	細目	偏差値
食料品	魚介類	50.10
	果物	50.17
住居費	設備材料	50.15
家具・家事用品	家事サービス	50.06
保険医療関連	医療品	50.07
	健康保持用摂取品	50.24
教養娯楽	切り花	50.24
	園芸用品	50.23
	書籍	50.04
	バック旅行	50.04

#### 消費支出の偏差値が低い分類、細目

分類	細目	偏差値
被覆及び履き物	子供用洋服	48.95
	子供用シャツ・セーター	48.87
保険医療関連	コンタクトレンズ	49.03
教育費		49.12
	授業料	49.09
	教科書・参考書	49.19
	補習教育	49.22
教養娯楽	幼児・小学校補習教育	48.94
	テレビゲーム機	48.87
	玩具	49.07

(2) 大字香春



年代構成  
 60代未満の人口:50%  
 60代以上の人口:50%  
 町内の60代以上の人口割合は47.5%であり、当町丁は高齢化率が2.5ポイントほど低い。

【特徴】大字香春の消費動向として、全般的に極端に消費支出の偏差が低いものが少ないが、子供世代への支出である教育費が低い。流入の偏差値が60.31と他町丁と比べて特に高い特徴はあるが、消費支出の偏差値が高い食料品、設備材料、家事サービス、生地、糸類、医療品、園芸用品も50を下回っており、全体的に消費支出が高くない。この町丁では高齢者向けの支出を増やしつつも、全体的な需要に喚起、底上げが必要と考えられる。昼間の人口が多い点にも注目点である。

分野別水準判定

分野	規模	安定	富裕	流入	密集	成長	総合
偏差値	50.6	50.51	51.67	60.31	50.57	56.92	53.43
水準判定	=	=	=	++	=	+	+

符号の意味:++高水準、+やや高水準、=平均水準、-やや低水準、--低水準

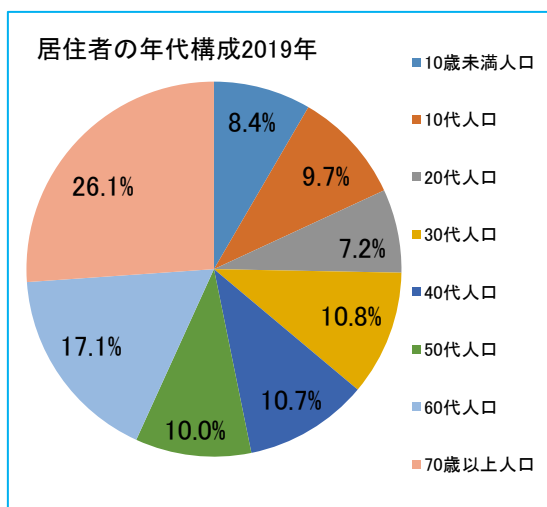
消費支出の偏差値が高い分類、細目

分類	細目	偏差値
食料品	魚介類	49.71
	果物	49.76
住居費		49.79
	設備材料	49.77
家具・家事用品	家事サービス	49.68
被覆及び履き物	生地・糸類	49.70
保険医療関連	医療品	49.67
	健康保持用摂取品	49.76
教養娯楽	切り花	49.78
	園芸用品	49.84

消費支出の偏差値が低い分類、細目

分類	細目	偏差値
住居費	地代家賃	49.09
保険医療関連	コンタクトレンズ	48.81
教育費		48.66
	授業料	48.65
	教科書・参考書	48.69
	補習教育	48.68
	幼児・小学校補習教育	48.93
	中学校補習教育	48.68
	高校補習教育・予備校	48.43
教養娯楽	テレビゲーム機	49.05

(3) 大字高野



年代構成

60代未満の人口:56.8%

60代以上の人口:43.2%

町内の60代以上の人口割合は47.5%であり、当町丁は高齢化率が4.3ポイントほど低い。

昨年の60代以上の人口:38.2%から5ポイント上昇している。

**【特徴】**大字高野の消費動向として、居住者の年代構成として60代未満が比較的多く、10代未満から50代までバランスよく居住されている。そのため子供用の被覆及び履き物や授業料、幼児・小学校補習教育の教育娯楽やテレビゲーム機などの教養娯楽の偏差値が高い水準にある。町丁内で支出が少ない分類においても偏差値が50を超えており、町内の平均より高い。町丁内で比較的低めの魚介類や果物等の食料品について伸ばす余地はあると考えられる。町全体の人口伸び率が-4.5に対し、-3.1と減少幅は少ないこともあるため住環境の整備などは効果的であると考えられる。

分野別水準判定

分野	規模	安定	富裕	流入	密集	成長	総合
偏差値	55.63	42.94	55.07	55.06	55.18	59.51	53.90
水準判定	+	-	+	+	++	+	+

符号の意味:++高水準、+やや高水準、=平均水準、-やや低水準、--低水準

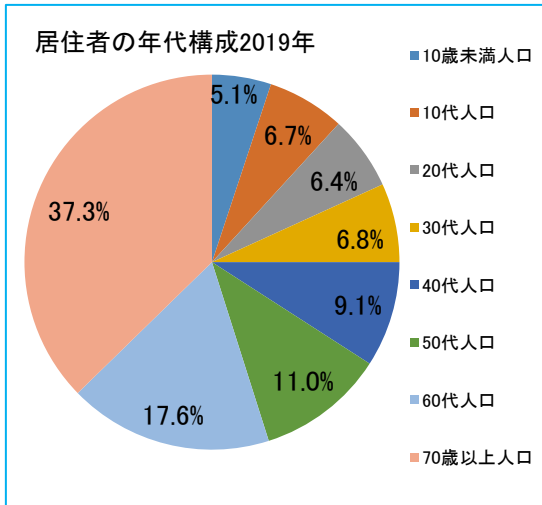
消費支出の偏差値が高い分類、細目

分類	細目	偏差値
被覆及び履き物	子供用洋服	55.24
	子供用シャツ・セーター	55.33
保険医療関連	コンタクトレンズ	54.73
交通・通信費	自転車購入	54.55
教育費		54.56
	授業料	54.58
	幼児・小学校補習教育	55.00
教養娯楽	テレビゲーム機	55.07
	玩具	55.01
	月謝類	54.54

消費支出の偏差値が低い分類、細目

分類	細目	偏差値
食料品	魚介類	53.97
	果物	53.92
住居費	設備修繕・維持費	53.87
	設備材料	53.92
家具・家事用品	家事サービス	53.99
保険医療関連	医療品	53.98
	健康保持用摂取品	53.81
教養娯楽	切り花	53.82
	園芸用品	53.88
	書籍	53.97

(4) 大字鏡山



年代構成

60代未満の人口:45.1%

60代以上の人口:54.9%

町内の60代以上の人口割合は47.5%であり、当町丁は高齢化率が7.4ポイント高い。中でも特に70歳以上の人口割合が昨年より減ったものの以前と居住者の4割近くが70歳以上と高齢化率の高い町丁である。

【特徴】大字鏡山の消費動向として、高齢化率とくに70歳以上が37.3%と多く、次いで60代も17.6%と合わせて54.9%を占めていることから、消費支出の偏差値に関して、全体的に町内平均を大きく下回っている。その中で医療品、健康維持用摂取品や切り花、園芸用品などの教養娯楽への支出は町内では比較的多い、子供向けの被服および履き物や教育費は軒並み低い状態である。町内での「安定」および「流入」が高いことから、食料品や住居費の生活必需品に関する需要をしっかりと取り込めるようにする必要がある。

分野別水準判定

分野	規模	安定	富裕	流入	密集	成長	総合
偏差値	42.78	61.54	41.46	58.22	42.92	50.77	49.61
水準判定	-	++	--	+	-	=	=

符号の意味:++高水準、+やや高水準、=平均水準、-やや低水準、--低水準

消費支出の偏差値が高い分類、細目

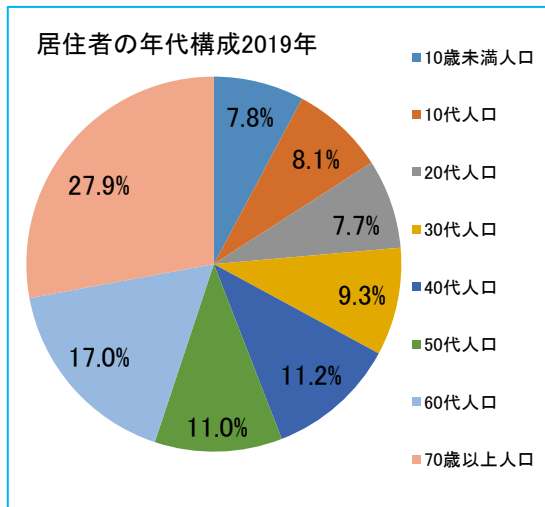
分類	細目	偏差値
食料品	魚介類	42.68
	果物	42.74
住居費	設備修繕・維持費	42.72
	設備材料	42.69
家具・家事用品	家事サービス	42.67
保険医療関連	医療品	42.67
	健康保持用摂取品	42.81
教養娯楽	切り花	42.79
	園芸用品	42.76
	書籍	42.67

消費支出の偏差値が低い分類、細目

分類	細目	偏差値
被覆及び履き物	子供用洋服	42.09
	子供用シャツ・セーター	42.05
保険医療関連	コンタクトレンズ	42.16
教育費	授業料	42.13
	教科書・参考書	42.16
	補習教育	42.17
	幼児・小学校補習教育	42.05
中学校補習教育	中学校補習教育	42.19
	テレビゲーム機	42.13
玩具	玩具	42.19



(5) 大字中津原



年代構成

60代未満の人口: 55.1%

60代以上の人口: 44.9%

町内の60代以上の人口割合は47.5%であり、当町丁は高齢化率が2.6ポイントほど低い。

【特徴】大字中津原は、消費支出の偏差値が町内平均を大幅に超えており、最低の分類においても偏差値67を超えており申し分がない。特に他町丁には見られない中学校補修教育や高校補修教育・予備校などの教養費が和服、ゴルフ用品など非生活必需品以外の支出が多く「富裕」偏差値が66.56と高水準の要因とも言える。同じく「規模」や「密集」について高水準の評価である反面、「安定」や「成長」が低水準、やや低水準評価であり高止まりの可能性もありうる。

商業人口の偏差値が62.93と他町丁と比べて値ベースで約2倍となっており、対消費者向けのみならず対企業・団体での需要喚起を増やすことが効果的と考えられる。

分野別水準判定

分野	規模	安定	富裕	流入	密集	成長	総合
偏差値	66.86	38.69	66.56	47.62	67.10	42.86	54.95
水準判定	++	--	++	=	++	-	+

符号の意味: ++高水準、+やや高水準、=平均水準、-やや低水準、--低水準

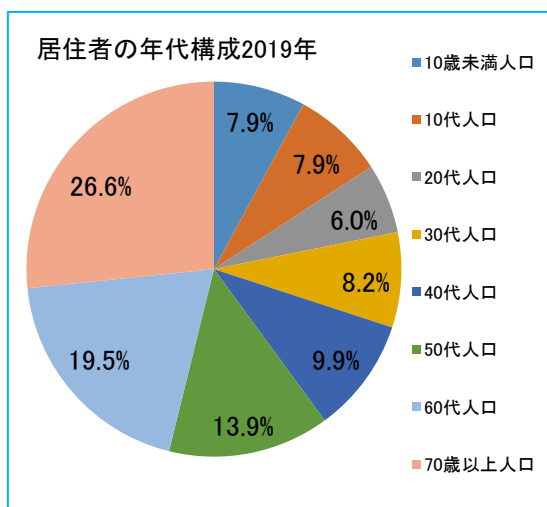
消費支出の偏差値が高い分類、細目

分類	細目	偏差値
被覆及び履き物	和服	68.09
	被覆関連	68.08
保険医療関連	健康保持用摂取品	68.08
	コンタクトレンズ	68.07
教育費	教科書・参考書	68.07
	補習教育	68.07
	中学校補習教育	68.08
	高校補習教育・予備校	68.34
教養娯楽	ゴルフ用具	68.07
	切り花	68.07

消費支出の偏差値が低い分類、細目

分類	細目	偏差値
家具・家事用具	一般家具	67.90
被覆及び履き物	子供用洋服	67.53
	子供用シャツ・セーター	67.49
交通・通信費	自動車等購入	67.89
	自転車購入	67.89
教育費	幼児・小学校補習教育	67.77
教養娯楽	文房具	67.91
	テレビゲーム機	67.70
	玩具	67.67
	月謝類	67.88

(6) 大字柿下



**年代構成**  
 60代未満の人口: 53.9%  
 60代以上の人口: 46.1%  
 町内の60代以上の人口割合は47.5%であり、当町丁は高齢化率が1.4ポイントほど低い。

**【特徴】**大字柿下の消費動向として、町内の60代以上の割合より少し低めであるが、消費支出の偏差値については全体的に低い、需要の面では厳しい状況である。「規模」「富裕」「流入」「成長」の分野において偏差値が40台であり低水準と判断されている。  
 高齢化率がそれほど高くないことを反映し、教育費やテレビゲーム、男子用洋服やコンタクトレンズなどが上位を占めている。その反面、生活必需品である食料品や住居費、医療品等の支出が低いことから、これらの分野に対して需要喚起する策を考える必要がある。

分野別水準判定

分野	規模	安定	富裕	流入	密集	成長	総合
偏差値	40.57	47.73	40.82	40.43	44.32	40.71	42.43
水準判定	--	=	--	--	-	--	-

符号の意味: ++高水準、+やや高水準、=平均水準、-やや低水準、--低水準

消費支出の偏差値が高い分類、細目

分類	細目	偏差値
被覆及び履き物	男子用洋服	42.13
保険医療関連	コンタクトレンズ	42.36
教育費		42.56
	授業料	42.58
	教科書・参考書	42.53
	補習教育	42.50
	幼児・小学校補習教育	42.28
	中学校補習教育	42.46
	高校補習教育・予備校	42.76
教養娯楽	テレビゲーム機	42.09

消費支出の偏差値が低い分類、細目

分類	細目	偏差値
食料品	魚介類	41.63
	果物	41.56
住居費	設備修繕・維持費	41.61
	設備材料	41.62
被覆及び履き物	生地・糸類	41.64
保険医療関連	医療品	41.65
	健康保持用摂取品	41.54
教養娯楽	切り花	41.56
	園芸用品	41.52
	手芸・工芸材料	41.64

**【まとめ】**人口動態に関して急な対策で結果が出ないため、今後の需要動向についてアプローチするキーワードとして「園芸用品」が挙げられる。比較的高齢者の趣味であるが、2019年度のガーデニング・家庭菜園市場規模は前年度比101.3%の2,304億円の見込とされ、これまで少なかった若者を引き込むためにSNSの活用などが業界として取り組まれるなど好機であると考えられる。